

<夏の訪問客>

桑原紀子

7月の終わり頃、台風一過の青空が広がった朝のことでした。

庭に出た私は、思わずドキンとしました。そばのウグイスカグラの葉に、黒い羽のほっそりしたトンボが、まるで青空から舞い降りた、という風情で止まっていたのです。

子どもの頃、故郷の川原で飛んでいたトンボ、でもこの辺りでは見かけたことのないオハグロトンボに違いありません。

黒い翅、まっすぐ伸びた金緑色の体、体に比して小さな頭に大きな目、清流、山間などの言葉を連想させる妖精のようなトンボです。夫を呼ぶ私の声はうわずっていました。夫もトンボ好き人間です。

でも、私のただならぬ気配を感じたのか、トンボはふわりと優雅に飛び立ち、ひらひらと庭を飛んでいます。

ヤンマのような力強さやスピードはなく、4枚の翅をひらひら動かしながら、庭の茂みにそっと止まります。

夫がカメラを近づけると、敏感に察して逃げます。すぐ止まるのですが、少しでも近づくとすぐ逃げるのです。

朝の光の中で、それは心躍るひとときでした。

やっと一枚撮影を許された夫は引き上げ、

私も(会えただけで満足)と、もう追いかけるのをやめました。

その日の夕方、いつもの様にシャワーの付



いたホースで庭の水撒きをしました。

裏山に面した庭の、カラスウリの絡まった山椒の木にシャワーを浴びせた途端、ひらひらとオハグロトンボが飛び立ちました。

まだいたんだ！嬉し

さがこみ上げてきました。もうとくにどこかに飛んでいったと思っていたのに。

びっくりさせたから、もう駄目かな、と見ていたら、トンボはまた元の居場所に止まりました。

こうしてオハグロトンボは4日間我が家の裏庭の茂みに滞在しました。

身体の色から雄と思うのですが、一匹で淋しくないかな、と思い始めた頃、ふっと姿を消しました。

多摩川の草むらで見たことはありますが、能ヶ谷では一度も出会ったことはありません。どこからやってきたのか、前日の台風に飛ばされて、本当に青空から舞い降りてきたのかも知れません。

心に残る夏の訪問客でした。